

草津電機株式会社



草津電機株式会社は草津市を発祥の地としてモーター・ポンプを製造している企業です。同社は、最近では産業用機器を主に製造しています。また子会社を多数設立しており、モーターの製造にとどまらない企業活動や地元草津への貢献など様々な事業を行っています。今回私たちは同社の代表取締役社長である北村嘉英さんにお話を伺いました。

草津電機株式会社

草津電機株式会社は2018年4月、創業70周年を迎えました。小さな町工場から始まりましたが、三洋電機株式会社の瀬田工場設立とともに電化製品のモーターの製造を始めました。その後各家電メーカーとの取引が広がっていくとともに草津電機も発展をとげ、子会社を展開をしていくようになりました。今では海外を含め13の子会社を展開しています

元々は家電製品のモーターを製造していましたが、1985年のプラザ合意後の円高による大手企業の海外進出、それによる安価な大量生産などもあり、現在では家電用ではなく多品種少量生産の産業用機器をメインとしています。

さらに新分野として医療、インフラ分野への進出や、モーターの高性能化に向けた補助金事業でもあるマイクロモーター製造など、新技術の開発にも挑戦しています。

子会社ではモーターの製造だけでなく、乾燥食品やスーパー銭湯経営など様々な業種を展開しています。また創業者の草津への還元という思いは、現在も受け継がれています。



<メッセージ>

滋賀県の学生の県内就職率は低くなっています。県内には多くの優秀な中小企業がありますので、就職の際には、ぜひ検討してください。

代表取締役社長
北村嘉英さん

会社概要

■住所(本社)	〒525-8501 草津市東草津二丁目3番38号	■設立年月日	1948(昭和23)年3月30日
■企業HP	www.kusatsu.jp/	■代表者名	代表取締役社長 北村 嘉英
■資本金 ■従業員数	資本金：21億7900万円(グループ計) 従業員数：950名(グループ計)	■業種	製造業(モーター、ポンプの製造・販売)

草津電機の事業展開

草津電機のポジショニングは、以下の4点にまとめられます。

- ①工場や店舗などの中型産業用モーターの製造が主力事業です。
- ②生産方式はオーダーメイド方式であり、顧客ニーズに細かく対応することが出来ます。
また、少量生産による付加価値の増大を実現しています。
- ③差別化（＝海外の大量生産と差別化）することで価格競争に巻き込まれないようにします。
- ④新製品開発では、風呂用酸素ポンプや磁石補助型シンクロナスリラクタンスモーターなど、様々なニーズに応える製品の開発や製造を行っています。

草津電機のグループ経営

草津電機株式会社には国内外問わず豊富なグループ拠点が存在しています。

【日本国内での多様な事業展開】

- ①株式会社山海 マイクロ波での加熱乾燥による乾燥食品の製造を行います。
- ②草津ヘルス株式会社 スーパー銭湯「極楽湯南草津店」の経営

【海外への事業展開】

タイや中国、フィリピンにも子会社や工場が展開しています。

地域とともに歩む草津電機

地元への感謝、地域への貢献のもとには、創業者の「儲かるより還元」という考え方があります。

- ①極楽湯の経営は、利益を上げるより地域への還元のためです。
→→ 実際に黒字になった際に入浴料金の値下げを行いました。
- ②現社長である北村嘉英さんは、草津商工会議所7代目会頭に就任され、他にも滋賀県中小企業団体中央会会長など様々な肩書きを持っておられます。

このように創業者の考えは今も受け継がれ、草津電機は地域と共に成長しています。



（取材学生）

<右上から>

経営学部	経営学科	2回生	橋本裕貴
経営学部	経営学科	2回生	大西康広
経営学部	経営学科	2回生	原航平

<取材を終えて>

形式は中小企業といえども規模で言えば大企業に劣らないと感じました。4代目社長北村嘉英様に話を伺うと、創業者の「創業当初地元にも助けてもらったから地元を大切に」という考えを重視していることが伝わってきました。そして、働き方改革を実践し、年次有給休暇取得日数が12.9日であることや、大企業に人材を取られ人出不足の中でも平均残業時間4.4時間という数字からは、従業員に対しての優しさを感じる事が出来ました。さらに、オーダーメイド方式や新技術の提案、新製品の開発、国内外問わない進出など挑戦し続けていると感じました。

このように地域や人を大切にする理念や、常に新しいことに挑戦していく経営方法によって、創業から70年以上と長く会社が続き、規模も大きくなり続けている素晴らしい会社を作り上げたのだと思いました。

（取材日：2018年11月7日）